

# 京都教区時報

<https://www.kyoto-catholic.net/>

カトリック京都司教区  
広報委員会

京都市中京区  
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

2026年 司教年頭書簡を受けて

## 第8回 武力に抗する平和の使徒



©Vatican Media

人間は神から自由と高度な知能を贈り物として与えられました。それは、神に似たものとして互いに愛し合い、一つになるために授かったのです。しかし、真の愛の交わり（平和）のために神から与えられた大切な贈り物を、人間は己の貪欲のために使用してしまいました。大量破壊兵器、先端兵器、核兵器は、人間の貪欲が生み出した代表的な産物です。今なお世界は、日進月歩で発展する技術力を、戦争兵器の開発に最優先で利用しています。対話ではなく、ボタン一つで数多くの人々の命を奪うことのできる自らの力を誇示しようとしているのです。

愛ではなく、暴力によって他人を脅迫し制圧する方法は、イエスが歩まれた道とあまりにもかけ離れています。イエスは十字架の死によって、神と人、人と人、そして人とすべての被造物の間に愛の架け橋（対話、ゆるし、和解、平和）を築かれました。暴力と殺戮を引き起こす兵器の使用（戦争）は、決して神が与えられる「真の平和」をもたらすことはできません。人間の尊厳を奪い、すべての人に涙と傷を残すだけです。

教皇レオ十四世が言及された「兵器」とは、単にミサイルや核兵器のような殺傷兵器だけを意味しているわけではありません。愛の架け橋、対話の

架け橋を破壊するすべてのものが「兵器」となります。

神から授かった贈り物を、人を苦しめるために使うすべてのものが「兵器」となるのです。教皇はこう言われました。「人と戦うのではなく、自分自身と戦いなさい」と。

兵器を捨てるということは、神の武器を身につけることを意味します（エフエソ6・13）。真の神であり真の人間であるイエス・キリストが歩まれた生涯こそが、私たちの武器です。涙と傷と罪を洗い流してくださったイエスに出会い、「平和」を享受する私たちは、同時に他者の涙と傷を拭き、包み込むことのできる力、すなわち「平和の架け橋を建設できる力」も共に与えられました。

だからこそ、私たちはみな「平和の使徒」なのです。今日、私は真の平和のために、どのような武器を携え、使用するでしょうか。まずは日常生活から出発してみましょう。神のみに根ざした一言の温かい言葉が他者へ届き、世界に愛と平和の架け橋を築く実を結ぶことにつながるでしょう。

滋賀ブロック担当司祭 チェジュ教区  
イウオンギユ

大塚喜直司教年頭書簡  
「教皇レオ十四世 希望と一致の橋をかける牧者」



9  
2026



伏見の疏水にかかる橋



# 京都教区90年、そのはじまり

— 祈りと決断、戦争の中で受け継がれた信仰 —

2027年、京都教区は創立90周年を迎えます。

この節目にあたり、メリノール宣教会の記録を手がかりに、教区誕生へと至る祈りと決断、そして戦争の苦難の中で受け継がれた信仰の歩みを10回の連載でたどります。

京都司教 十パウロ大塚喜直

## 第1回 京都教区誕生の前夜 — 京都・滋賀を新しい宣教地へ —

1930年代初め、まだ「京都教区」という名はありませんでした。当時、京都・滋賀・奈良・三重は、大阪・兵庫・和歌山とともに、2府5県に及ぶ大阪教区に属していました。しかし、その広大な管轄地域に比べ、司祭の数や財政的な基盤、宣教の拠点は限られていました。各地に暮らす人々のもとへ福音を届け、それぞれの地域に根ざした教会共同体を育てるためには、従来の体制を見直し、新たな宣教の道を開く必要があったのです。

### 日本教会の宣教区域再編の動き

そのころ、日本のカトリック教会では、広大な教区を再編し、それぞれの土地により根ざした宣教と司牧の体制を整える動きが進んでいました。各地に新たな宣教区域が設けられ、限られた人員や資金の中でも、福音がまだ十分に伝えられていない地域へ宣教師を派遣しようとする努力が重ねられていました。京都と滋賀を新しい宣教区域とし、別の宣教会に委ねるという構想も、こうした日本の教会全体の歩みの中から生まれました。この計画は、後に奈良と三重を含む現在の京都教区へと発展していきます。



教皇ピオ11世

### 福音が土地に根付くために

その背景には、普遍教会が示していた宣教の方向性がありました。教皇ピオ11世は、1926年の宣教に関する回勅『レールム・エクレジエ』において、宣教地の教会が外国人宣教師に依存し続けるのではなく、その土地に根を下ろし、現地の聖職者に担われる地方教会へと成熟することを求めました。宣教とは、外国から来た宣教師がいつまでも中心であり続けることではありません。福音がその土地の人々の信仰と生活の中に根つき、やがてその教会が自ら歩んでいくことを目指す営みだったのです。

### カスタンニエ司教の決断

パリ外国宣教会の宣教師として日本に派遣され、当時、大阪教区司教を務めていたジャン・バティスト・カスタンニエ司教 (Jean-Baptiste Castanier, M.E.P., 1877-1943) は、こうした普遍教会の宣教方針を受け止めていました。メリノール宣教会の記録によれば、カスタンニエ司教は、限られた人員と財政のもとでは、広大な教区に暮らす多くの人々に十分にキリストを知らせることは難しいと考えていました。そこで、自分たちだけですべてを担い続けるのではなく、他の宣教会と協力し、新たな宣教区域を築く道を模索しました。それは、より多くの人々のもとへ福音を届けるために、教会の使命と働きを分かち合おうとする積極的な決断でした。長年にわたって育ててきた宣教地の将来を、新た



大阪教区長  
ジャン・バティスト・  
カスタンニエ司教

写真提供：パリ外国宣教会  
史料研究所（IRFA）

な担い手に託すことは、決して小さな決断ではありませんでした。それでもカスタンニエ司教は、自分たちの事情にとどまらず、教会全体の使命を優先し、新しい協力の道を選んだのです。

その構想の中心に置かれたのが京都でした。京都は、日本の歴史と文化、宗教の中心地であり、宣教にとって容易な土地ではありませんでした。しかし同時に、日本社会に福音を伝えるうえで、きわめて重要な都市でもありました。カスタンニエ司教は、京都と、その東に位置する滋賀を一つの宣教区域とし、新たな担い手に託すことを考えました。

## メリノール宣教会との出会い

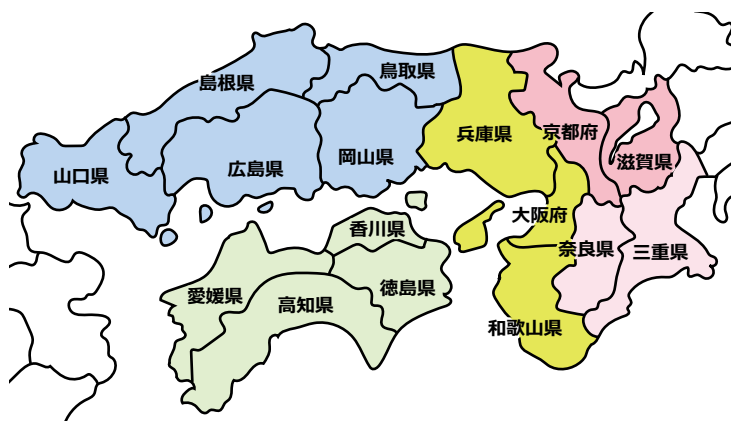
そこで浮かび上がったのが、1911年にアメリカで創立されたメリノール宣教会（The Catholic Foreign Mission Society of America、通称 Maryknoll Fathers and Brothers）でした。同会はアジアにおける宣教に力を注ぎ、日本でも新しい宣教地を担う可能性を探っていました。当時の駐日教皇使節エドワード・アロイシウス・ムーニー大司教（Archbishop Edward Aloysius Mooney, Apostolic Delegate to Japan, 1882－1958, 在任1931－1933）は、大阪教区とメリノール宣教会との間を結び、この構想を後押ししました。こうして、大阪教区の願いとメリノール宣教会の志が出会い、京都・滋賀への道が少しずつ開かれていったのです。

これは、単に教区の一部を切り離すという行政上の再編ではありませんでした。自分たちだけで使命を抱え込まず、教会全体のために働きを分かち合い、大切な土地を新しい担い手へ託すという宣教の決断でした。まだ名も形もなかった京都教区は、祈りと協力、そして使命とともに担う勇気の中で準備されていきました。

## 大阪教区の宣教区域の変遷

1880年、大阪教区は近畿、中国、四国の3地方すべてに福音を告げ知らせる使命を担っていた

- 四国知牧区 1904年分離
- 広島代牧区 1923年分離
- 大阪教区
- 大阪教区 京都と滋賀を京都教区へ
- 大阪教区 奈良と三重も共に京都教区へ



## 京都教区の原点から学ぶ

創立90周年を迎える私たちも、この原点から学ぶことができます。人や力の不足を嘆くだけでなく、互いの賜物を生かし、使命をともに担うとき、神は新しい道を開いてくださいます。京都教区の始まりにあったこの精神は、今の共同宣教司牧にもつながっています。

今回は、この呼びかけに応えようとしたメリノール宣教会が日本へ向けたまなざしをたどります。

## お知らせ

## 司 教

## 大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



## 教 区

## 一場修師司祭叙階25周年感謝ミサ

9月12日④ 10:30 河原町教会

## 盛年のための1泊黙想会

日 時：9月20日④ 16:30～21日④ 15:00

場 所：唐崎祈りの家（滋賀県大津市唐崎1-4-1）

講 師：菅原 友明師（京都教区司祭）

テーマ：「主とともに、いま、神の声を聴く」

対 象：盛年（36～50歳ぐらい）

申込・問合せ：信仰教育委員会

メール/shinko\_kyouiku@kyoto.catholic.jp

■教区時報11月号の原稿締切日は9月27日④

## 諸 団 体

## 京都カトリック混声合唱団

9月13日④ 14:00 聖歌練習

9月26日④ 17:30 練習後ミサ奉仕

場 所：河原町教会聖堂 団員募集中

問合せ：則武 隆 075-951-4283

## コーロ・チェレステ（女声コーラス）

練 習：9月10日④ 10:00 24日④ 10:00

場 所：河原町教会2階楽廊 新会員募集中

問合せ：駒井和子 075-561-5971

聴覚障がい者の会・京都グループ  
手話表現学習会（聖書と典礼）

日 時：9月15日④ 13:00～15:00

場 所：河原町教会地下ヴィリオンホール

問合せ：鎌田 修 090-1967-5636

kamadaosamu@gmail.com

## 心のともしび

ラジオ番組案内（全国34局で放送）

9月主テーマ「健やかさの源」

KBS京都 ④～⑤ 朝5:55

⑤ 朝5:15

ラジオ関西 ④～⑤ 朝5:00

⑤ 朝6:05

毎日放送 ④～⑤ 朝5:45

⑤ 朝4:55

## カトリック京都働く人の家

## 読書会・遠藤周作「イエスの生涯」

日 時：9月13日④ 九条教会9時ミサ後

場 所：九条教会内働く人の家

対象者：どなたでも

問合せ：瀧野正三郎 090-8207-1831

皆さまのまわりに点訳版「京都教区時報」が必要な方がおられないでしょうか。点訳版「京都教区時報」をご希望の方がおられましたら、「点訳ネット・レジナ」笠松幸彦さんまでお申込みください。無料でお送りします。Tel・Fax/072-722-0271

## 司教とWaiwai 語る 予告

11月に「司教とWaiwai 語る」というイベントが開催されます。これは、大阪教会管区の名古屋教区、京都教区、大阪高松大司教区、広島教区の4教区の司教様と青年たちが集まり、共に過ごす集いです。

5名の司教様のお話を直接伺い、お話をすることは、普段にはない貴重な機会です。特に、京都教区以外の司教様と近くで交わる機会はとても貴重だと思います。2日間に企画がぎゅっとつめこまれ、たくさん学べる時間になりそうです。また、他の教区の青年たちと時間を過ごす事も素晴らしい体験になります。

私は以前同じ企画に参加したことがあります。SNSでその時のことをふり返ると、とても充実した2日間だったことが分かりました。次はあなたがこの体験を！

開催日：11月7日④・8日④

メイン会場（ミサ）：カトリック衣笠教会（京都市北区衣笠御所ノ内町4）

サブ会場（宿泊）：京都市宇多野ユースホステル（京都市右京区太秦中山町29）

対 象：18歳～35歳までの青年 定員がありますので申込みはお早めに！

参加費：8,000円



申込みは二次元コードから

